

2016年8月21日

福音書からのメッセージ

狭い戸口から入るように努めなさい。言っておくが、入ろうとしても入れない人が多いのだ。(ルカによる福音書 13章 24節)

「狭い戸口から入るように努めなさい」。このようにイエス様は言われます。わたしたちはこの言葉を聞いたときに、二つの道があったら困難な道を選びなさいと言われてるように思うかもしれません。しかし今日の箇所では、果たしてそれだけでしょうか。

イエス様はどのような状況でこの言葉を言われたのでしょうか。このようにあります。「イエスは町や村を巡って教えながら、エルサレムへ向かって進んでおられた」。エルサレムに向かうとは、十字架の受難へと向かうということです。つまり今日の場面でイエス様は、ご自分の十字架を意識しながら従っていた人たちに対して教えていたのです。

イエス様はすでに二度、ご自分が十字架にかけられることを予告されていました。死がもうすぐそこまで迫ってきているのです。だから今、たくさんのお話を伝えたいといけなく、そう思っていたでしょう。自分がそばにいないとしても、これだけはわかってほしい。その一つが「狭い戸口から入るように努めなさい」という教えなのです。

では、狭い戸口とはいったい何なのでしょう。身軽な人だけが通れるものなのでしょうか。それとも身体にまわりつくたくさんの物を捨てることができる人だけが入ることのできるものなのでしょうか。わたしたちは、このような聖書の言葉を聞くと、と



ても悲しくなることがあります。なぜなら捨てられないからです。いろんなものを抱えたままで歩いていきたい、そう思うからです。ではイエス様はどのようなわたしたちに、「あなたたちは

救われることなどない」と伝えたかったのでしょうか。そうではないと思います。

わたしはこれまでの人生の中で、自分の力で「狭い戸口」を選んではいませんでした。しかし結果的に「狭い戸口」に向かわされているように感じます。イエス様に従うと決心したとき、いつの間にか道が狭められていったように思うのです。

イエス様は十字架を背負い、神さまとわたしたちとの間にある大きな溝を十字架で埋めて、わたしたちが神さまへと向かえるように、道をそなえてくださいました。その十字架によって切り開かれた道の入り口が「狭い戸口」なのです。

その戸口は、自分の力で探すことはできません。ただイエス様によってのみ、わたしたちは導かれます。イエス様の招きに応じてはじめて、わたしたちの救いの道は開かれるのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>